

## 会 議 録

### 1. 附属機関等の会議の名称

篠山市農都創造審議会

### 2. 開催日時

平成31年2月19日(火)15時00分から17時15分まで

### 3. 開催場所

篠山市役所本庁舎 4階 議員協議会室

### 4. 会議に出席した者の氏名

- (1) 出席委員 小野雅之、田渕清彦、小倉義彦、若狭幹雄、西田博、酒井菊代、酒井由雄、  
澤村香里、吉良佳晃、谷掛まゆみ、谷口功、山崎義博、小林英理子
- (2) 欠席委員 田渕真也、構井友洋
- (3) 執行機関 酒井隆明、堀井宏之、森本秀樹、岸野良広、押田健一、竹見政徳、  
神田文彦、森本良太

### 5. 傍聴人の数

なし

### 6. 議題及び会議の公開・非公開の別

すべて公開

### 7. 会議資料の名称

- ・篠山市の農業の現状
- ・平成30年度の農政の課題と主要な取組
- ・篠山市農都創造計画の達成状況及び進捗状況

### 8. 審議の概要

#### 委員D

市内の黒大豆圃場でダイズシストセンチュウによる被害が8.2%見受けられ、対策を周知したと報告があった。茎疫病が2割程度発生しているので、その対策にも力を注ぐ必要があるのではないか？

黒大豆の定点調査に協力しているが、農業者同士の意見交換の場をつくってほしい。

定点調査を実施しているが、ハスモンヨトウが収量減に影響があるのか？

#### 事務局

茎疫病は、耕耘による乾田対策や溝掘による排水対策が大切です。排水対策として溝堀機の機械導入支援を行っています。また、茎疫病に強い品種改良も研究が行われています。

定点調査を依頼している農業者同士の意見交換の場は、検討します。

定点調査は、ハスモンヨトウの発生状況を調査することで、防除のタイミングを農業者にお知らせするもので、農薬散布の低減に繋がっています。

## 委員C

(有) グリーンファームささやまの事業の見直しは検討されたか？  
大規模農家と地域が連携した取組事例の紹介があったが、あくまでも事例か？

## 事務局

(有) グリーンファームささやまがセーフティネットとしての位置づけは、変わっていません。現在、2地区で地域と(有)グリーンファームささやまが連携する体制づくりに取り組んでいます。

大規模農家と地域が連携した事例は、大山地区で大規模農家が農作物の栽培を、地域が畔の草刈りなどに取り組まれています。これを一つの事例として、城北地区や岡野地区では、課題に対する対応の検討が進められており、今後も重点的に支援します。

## 委員J

集落営農を推進することで兼業農家の状況は良くなったか？

神戸大学生などが農業実習を行っているが、若者の担い手像はどのようなものを考えているか。

販売戦略として、生産性を重きとする地域の農産物と、生物多様性を重きとする地域の農産物に区分し、地域の特徴を生かしながら、それらを車の両輪として戦略を考えてはどうか？

## 事務局

集落営農組織の状況は、高齢化や構成員の減少などがあり、様々な支援を講じているものの良くなっていない状況です。兼業農家の皆さんが長く続けられるよう、今後も集落営農を推進します。

若い世代が担い手になっていただきたいと考えています。神戸大学生で就農された方もあり、今後も新規就農者を支援していきます。

大規模農家の農業と有機栽培など環境に配慮した農業を両輪として取り組みを進めていきます。

## 委員F

農産物において篠山の特色を出していく必要があると思う。農家は水稲や野菜をそれぞれのやり方で栽培している。農薬の使用など、生産基準を作ってはどうか。

兼業農家への支援を手厚くする必要があると思う。

## 事務局

農薬の使用については、法律により作物ごとに登録されています。JAと連携して農家の方へ周知していきます。

特産物である山の芋は、様々な方法で兼業農家への支援を行っており、今後も継続していきます。

## 委員B

篠山市は認定農業者が少ない。認定する基準を下げてはどうか。基準を下げることで、支援が受けやすくなる。効率的な農業がおこなわれることで、農業所得が安定する。

## 事務局

認定農業者は、農業者が立てた計画を市が認定する制度で、生計を立てる上で他産業並みの所得を目指す目標水準になっています。兼業農家からも認定農業者になっていただけるようPRをしていきます。

## 委員D

現状では、農業で生計を立てることの難しさがある。特に認定農業者になるためには、目標所得を見据えた5年後の計画を立てなければならない。頑張っている兼業農家の将来を考えた支援をしてもらいたい。

農業者は生産を中心に頑張っている。事業者と連携して、加工や販売など連携することでブランドの強化を図ってほしい。

## 会長

次年度の計画見直しに向けた意見として伺います。

## 委員L

学校給食で地元産の農産物の使用率が昨年より低下しているのはなぜか？  
供給している農業者の高齢化や昨年の悪天候が影響しているのか？

## 事務局

天候不順による影響もありますが、報告は平成31年1月末時点の数値です。給食センターからは、3月末に向けて達成できるよう進めていくと聞いています。

## 委員E

農村女性組織連絡会や女性オペレータースクール、子育てママの野菜づくり講座など、食に関心を持つ女性が多い。子どもたちには、農業と食育、環境について一体的に推進してほしい。

## 会長

次年度の計画見直しに向けた意見として伺います。

## 委員N

食育を推進するためには、地産地消が大切と感じている。農家の皆さんに安心安全な物を作っていただき、美味しく食べれるような指導を進めてほしい。

## 委員I

新規就農者への支援はあるものの、「支援対象が45歳未満」という要件がある。就農しやすい条件整備として要件緩和などを検討してほしい。

## 事務局

国の支援制度では、平成31年度から対象年齢を45歳未満から50歳未満になる予定です。

## 委員K

関西圏に販路を広げていくことが農業者の収益に繋がるのではないか。また、地産地消の拡大も進めてほしい。

## 委員M

篠山市の取り組みの現状はよくわかったが、将来の課題を見据えた取り組みが大事である。

例えば、大規模農家に農地を預けても、農地所有者が草刈りをしなければならない。農地所有者が高齢で草刈りができない場合、誰かに依頼すると費用が掛かる。また、他の例で、

素掘りの水路の維持管理は重労働である。

黒大豆の生産者はかなり高齢化している。何年か先には、黒大豆の作付け面積が加速的に減少していくのではないかと感じる。生産者の若返りが必要であり、篠山市の特産物は戦略上、大きな武器だと思う。

#### **事務局**

多面的機能支払い交付金制度を活用し、草刈りや水路の維持管理など有効な活用方法を地域に進めていきます。

省力化機械の助成制度も設けているので、若い世代の育成を地域でも進めていただきたい。

#### **委員A**

女性の活躍をさらに進めてほしい。農業に農家・非農家はないと思う。他の地域では、地域外の女性がトラクターに乗って活躍している事例もある。

消費者に安心な農産物を販売することがこれから大切だと思う。

#### **委員C**

山の芋掘り取り機の実証結果はどうだったか？

#### **事務局**

実証試験は丹南地区で行い、掘り取り機の効果はあった。しかし、市内の土壌条件は様々であり、土質によって効果の差が生じるのではないかと感じた。実証試験を見学された農家の方に尋ねると、収穫作業を手作業で行い、その成果を見るのが一番の楽しみであるという意見もいただいている。

#### **委員B**

少子高齢化が進むなか、市外から来てもらうことも大切だと思う。また、インバウンドにより篠山市の農産物の良さを知ってもらう取り組みが重要と考える。

#### **会長**

委員の皆様からいただいた意見は、次年度の計画見直しに向けたものと踏まえ、事務局には今後活かしていただくようお願いする。

#### **閉会**